京城新報

社會縱橫（八）　みどり

△去る十日下午一時五十分一發の號砲を合圖に濟物浦頭を拔錨したる軍艦吾妻は東洋の偉人世界の政治家伊藤公を載せて雲烟漂渺の間に其の姿を沒し候、思ふに航行二日無事釜山に投錨する迄の軍艦の使命と艦長の責任とは却々容易のものには無之候、而も之と反對に艦中の御主人公は此の上もなき安樂のことゝ被存候、蓋し四圍寂寞の海上軍艦の動搖は鼻唄々々ブランデーの微醺に陶然として苦痛を忘るゝ仲間は恐らく此の世ならなる樂園境と被察候

△凡そ何事にまれ、第一者の安樂と偸安とを貪らんとする反面には必ず苦痛と心配とを蒙る第二者の在ることを要せざるものに候、蓋し之れ古往今來理の免れざる所ツマリ優勝劣敗の結果に外ならず候、而して優勝者は常に自己の欲望を滿足せしめ劣敗者は常に自己の欲望を滿足せしめられざるものに候

△統監伊藤公は此の點に於て紛れもなき優勝者に候、併し公はある意味に於て必ずしも優勝者とは申されず否な却つて劣敗者と申す方當れるやに被存候、蓋し公は自己の胸案に對して反對の意見を抱くものは絶對的[illegible]の石と[illegible]とかの御所存の由に候も他山の石が累々として四邊に轉がり居るに於ては公の所謂胸案なるものはツマリ自分が獨りで一口に申す鷄谷の飛石位のものにて決して建築の用材には供せられず候而し建築の用材に供せられざる公の胸案は之れ即ち精神的の劣敗者には無之候乎

寄書

●過ぎたるは猶及ばざるが如し（下）　二十四乘生投

伊藤統監の去らんとする是れ事實となるべきか噂のみにして止むべきか吾人之を知らずと雖ども公が老軀を煩す事茲に四年東洋否世界の大政事家が一生の思ひ出に苦心經營せられたる對韓政策は果して能く豫期の好果を收め得られしか軍隊の解散は暴徒の因となり大官政器はヨボ大臣の傲慢となり百方御氣兼の對外策も治外法權を如何ともする事能はざるが如し今回南北の行幸の如き烏渡大向ふをして成田屋ーを叫ばしむるに足ると雖ども要するに其實跡は未來の問題なり頃者早稻田伯が例のクローマー卿の埃及を引證して遠き前途に嘱望すといふと雖ども其は唯伯の感想に過ぎず吾人不幸にして同感なる事を得ず吾人の心鏡に映する公が數年の經營は雨の如く降りたる法令條規は燕され爛熳として咲ける萬朶の山吹の只一時眩目の觀なきにあらざるも遂は實の一つだになきぞ悲しきの嘆を禁ずる事能はず南山の巍々多の官舍が甍を並べたると泥硯街頭時に末氏が馬車の轔々たるを聞くの外何等實跡の見るべきもののあるを知らず嗚呼公が世界の大政事家を以てして長谷川將軍の威風堂々たるを以てして佐藤博士の起

文苑

●たかみさん　かへで

僕は勤人である。毎朝、僕は此の前を通るのである、すると其れ教會堂前の阪の上り口に魚屋がある、其處の太きな色の黒い主婦さんが必ず立つて居る、この寒天に何故あゝやつて居るのだらうと、僕は不思議に思つてた、それが如何した事か今朝は見えなかつたので、僕はなんだか物足らぬ如な感じがしてならなかつた。

社の歸途に魚屋を硝子越に覗いたが、矢張、色の黒い主婦さんの影が見えなかつた、オギャア〱と泣聲が奥から聞ゑた。

●湯　屋●　れほば

こみ合、へし合ふ浴槽に、職人風の男頑張る、數多浴客、澁面作りて顫へてありき、やがて男の上りて、冷水をザブ〱と使ひ始めぬ。

「冷たいなあ、君少し注意して呉れ給へ」色白の若き男の言へば、「何だッ、冷たいッ、水の冷たいのは昔から定つてらあ、冷たくつて惡けりや其處へ行つてろい、青二才奴が」

實にやてれ、イソップ物語にある、小羊と狼とに髣髴たるにあらずや、ア、現代、情義陥ち人道頽れて、獨り黄金にのみあこがるゝ横行時代なるぞよと、私は思ひぬ。

●パン●●●●なる哉　愛　子

八年螢雪、苦も効なく、止むなく學を廢して茲に一年、妻あり養はざるべからず。子は將に生れんとす、乳を與へざるべからざるも、憐れ薄倖の我れ、家を舉げて餓死せしめざるべからず、あゝ誰をか頼りて、救ひを求めんや、と友は泣きぬ。雲山遠く異郷の空に逆境を喞つは、獨り知遇すくなの我が友のみにあらざるべし、それもかくても、人はこれ、パンの動物なるかな。



佐倉宗吾（五）　貞龍齋貞水講演

其内にゴーウ〱と鼾の聲、また御睦まじく御寢し遊ばすと　長「エヘーン」時々咳拂ひをする、有繋に御臺樣、惡い奴と思召し夜が明けるを待て、窮屈袋を降し、中から長四郎を出して　女中「長四郎殿」も何も真赤にしてゐる　長「へ　女「貴下のやうに本統に悪戯者はございませぬ、サア御台様の御前で、申し上げて御仕舞ひなさい　長「へ、申し上げますが、空腹に成て居りますから、希ぞ御握飯でも頂戴いたしたいので　女「それでは御握飯を上げたら、申上げますか　長「エ、其時は速に申し上げます」それから御握飯を拵ゐて下さる　女「サア食上がれ　長「頂戴いたします、御寵氣の工合が大變よろしうございます　女「そんな事は何うでも宜いから、速く申し上げなさい　長「エー滿腹いたしました　女「サア申し上げて御仕舞ひなさい　長「へ、大河內善兵衛の倅、松平長四郎に頼まれて雀を捕りに參りました　女「何ですと、貴下のやうに本統に強情な者はございませぬ」と御女中が叱り付ける、何と申しても頼まれませぬと云ふ、すると此時、二代公が御一室の內で[illegible]不埒者奴ッ、幼年の者と御台は宥して置かれるに、尚は其方は付け入つて、飽まで強情は居るか、左樣な不埒な事を申せば、予が手討に致す」と御刀をスラリと御拔きになつた長四郎見るさ御庭にパッと飛降りて、ピッタリ座つて合掌と手を組み、首を差伸べ、御手討の覺悟を致しました、有繋の二代將軍も、是は甚だ恐縮し、威脅のため撫冠つて居らせられる、此方は竹千代樣、長四郎が御台の許へ擒になつた事を御聞き遊ばし、御心配として居らせられる、夜が明けても戻つて來ない、容子を見て參れとの仰せ、そこで堀田正五郎と阿部鐵丸が、窃と御垣根の傍へ來て見ると、長四郎が今、御手討にならんとしてゐるから、堀田正五郎すんで來て長四郎を押除け　正「其雀を捕てくれと申しましたのは、此堀田正五郎でございますから、正五郎御手討を願ひます」と云ふと阿部鐵丸が正五郎を押除けて　鐵「此鐵丸が欲しく存じまして雀を捕て貰ひましたから此鐵丸を御手討に願ひます」と云ふと、長四郎が鐵丸を突除けて　長「イエ、此長四郎が欲しくて捕りました」云ふと正五郎が、それを突飛はし　正「イエ私が頼んでございますと、三人が相争つて將軍家の御刀の下へ首を延ばします、將軍家心中涙を流し給い「泣く〱」と仰つしやる內に、三人ウワーと云て逃げて仕舞つた、其逃げる後姿を御覧あそばし「エー、竹千代は良い家來を有ちしなア」と仰せられた、果せるかな、皆な是が後に御大名と成り、竹千代樣御成人の後ち、三代將軍家の下に於て、阿部鐵丸は阿部豐後守忠秋となり、松平長四郎は松平右近太夫の御養子、松平伊豆守信綱となり、堀田正五郎は、下總國佐倉の城主十八萬石、堀田加賀守紀の正盛と名乘り遊ばしました、稻葉內匠は吉野に在て、我が妻お福は既に、春日局と崇められる程の勢ひに相成りましたが、身は剃髮して、花鳥風月を友とし、其日を送つて居りましたが、深き二代樣の思召を以て、後ち御取立に相成りました、さて此加賀守正盛殿は、三代將軍の御代に於て、天晴仁德の聞へ高き御方でございまして、種々なる御話もございまするが、大略いたしまして、其一二を申し上げますと或る日茶道の春齋が、メソ〱泣いて居ります　加「春齋、何事を其方落涙いたす　春「イエ、泣きは致しませぬ　加「泣きはせぬぜ申しても、其通に涙を滾してゐるではないか　春「イエ、涙ではございませぬ、風邪を冒ひて鼻水が出るのでございます　加「鼻水が眼から出る譯はあるまいぞ　春「今日は逆上せて眼から出ます



제34호 1909. 2. 14.

京城新報

在韓子弟の教育の欠點

韓國の事情を教ふ可し

將來の韓國經營を爲すべき使命を有する在住邦人の子弟は如何なる教育を受けつゝある乎、能く韓國の言語を解し、地理を知り歷史を知り物産を知りて、韓人と商業及び農業等に於て競爭し得るの資格を養成しつゝある乎、商人となりては地方に入り市場に競爭し或は仲買等に從事し韓人に劣らざる驅引をなし得るの智識を養成しつゝ有乎、農事を經營する爲其土地を購入するに其收[illegible]き大責任を有する子弟にして此等の智識備らずさせば何を以て能く韓人等と生存競爭に角逐することを得べきや、或は云はん彼等子弟は學校に於てこそ此等の知識を得ざるも、先進の[illegible]知るものに依りて之を解することを得べしと、然り或は夫れに依りて多少其事情を解することを得べきも斯る雜駁なる知識を以ては到底韓人と互格の競爭はなし得ざるなり、若し夫れ居留地にのみ引籠りて僅に日本商品を賣るのみに止まれば夫れにて可なるべきも、今後の日本人は斯る姑息の事にのみ從事するを許さず、韓半島全部の開拓は日本人の使命なり居留地制度は過去の時代なり、今や斯る處に韓人と雜居し[illegible]するの時代なり此時に於て生存競爭に於て彼等に劣るが如き事にては何ぞ[illegible]使命を完ふすることを得んや、[illegible]殖民地に於ける兒童教育は其地の[illegible]物産等の科目を置きて其經營の智識を與へざる可らず、英國及び獨逸は最も之に重きを置く、近時獨逸殖民地の隆昌に赴くは全く之が爲なり、然るに韓國に於ける邦人子弟の教育は此點に闕し全然缺如せり、祖國の教科書に依りて教育するを以て祖國に於て事業を爲すには欲くる處なかるべし[illegible]も、韓國に於て事を爲すには全然資格を欠く、現在の居留地小學校の教育は[illegible]繰り返して祖國に於て生活せしむるに適當なり、斯る教育は過去に於ける腰掛的居留民時代に屬す、帝國が宗主國として韓國を經營するの時代には適せざるなり、斯國に生れて斯國を墳墓とするの覺悟をも養成せざる可らず、之を養成するには斯國の事情を能く知得せしめざる可らず、所謂韓國通なるものを介して漸く事情を知るが如き現今の狀態にては決して充分なる經營はなし能はざるなり、或ものは云ふ一千萬の韓人をして日本語を解せしむれば韓語の如きは習はざるも可なり、之れ眞に潔よき言分なれども深く考れば甚だ誤れるものなり、彼等が日本語を解する迄待つの迂を學ばんより寧ろ我に於ても彼語を習得して彼等の中に突進することこそ捷徑なり獨逸人が殖民地に於ける成功は此捷徑を取るが爲なり、之れ攻勢的にして所謂人に先するものなり、要するに在住邦人子弟の教育は韓人と奮闘して勝を制するの資格を養成するを主とせざる可らず、然らば如何にして可なるべきや、日韓合同の教育は尙は早し、故に現在の學校に於て教育する科目の中にて餘り必要ならざる部分を削りて韓國の言語地理歷史物産等の要目を加ふるを可とす、之れ雖も首肯し且つ容易に行はれて學童の將來社會に立つときに於て多大の便宜あらん

東京電報

昨年米實收額

昨年度の米實收額は五千百八十九萬七千三十三石にして前年より五歩八厘半年より一割三歩三厘を增し三十七年の豐作に比するも尙九厘の增加なり

▲總豫算の日程

四十二年度總豫算四十一年度總豫算追加其の他明日の衆議院議事日程に上る

▲日露戰役損害

日露戰役の個人救濟は前内閣にて詮議中内閣交迭となりしが現内閣も別に異議無きも財源の都合にて提案の運びに到らず依て政府の處置を促さんため各派有志中に協議中なり（以上十二日發）

雜報

●未定皇室債務

既報の如く皇室債務の總高は二百四十万圓にして既に其の大半を整理し目下は宮に關する分三件、此の金額五十一萬八千圓準單債務五件此の金額四萬三千八百圓雜債務四十七萬六千五百圓にて合計十七件と一百三万八千三百圓の整理中なるが此の内十件は本月中に決定し殘りは三月中全部決定の筈なりと云ふ

●酒煙草稅内容

本年度韓國の豫算に二百万圓餘の歲入不足を生じたるに就ては之れが補欠として家屋、酒、煙草の三稅目を新に設定せしことは既報せし處なるが該稅目は愈々十三日の官報に公布せられたり今其の概要を記せば家屋稅法の課稅標準及稅率は其等級を四等とし一等三十間以上甲種八圓、乙種五圓、二等十間以上甲種二圓、乙種一圓三十錢、三等四間以上甲種八十錢、乙種五十錢、四等四間未滿甲種四十錢、乙種三十錢なり酒稅は醸成、蒸酒、混成の三數に分ちて醸成酒は五石以下一圓、十石以下二圓、二十石以下四圓五十石以下十圓百石以下二十圓なりと而して蒸溜酒は一石以下一圓、二石以下二圓、五石以下五圓、十石以下十圓、二十石以下二十圓、五十石以下五十圓なり次ぎに混成酒は二石以下六圓、五石以下十五圓、十石以下三十圓、二十石以下六十圓、五十石以下百五十圓にて此等前項二類に比し稍高く[illegible]は第一種耕作植付根數九百以上一ヶ年五十錢・第二種植付根數九百以下一ヶ年二圓にして販賣業者は卸賣の者一ヶ年十圓小賣同二圓なりとす

●驛屯土引渡期

度支部より拓殖會社に引渡すべき驛屯土は拂込額の四分の一即七十五万圓分なることは既報の如くなるが此引渡に付荒井度支部次官の語る所に依れば書面上の引渡は先月十五日付にて既に完了せるも實地の引渡は全國に散在せる同地のこと故多少の調査を要する上に拓殖會社の希望もある事なれば十二日は是等に對する相談を爲せしことにて三四月中には全部の授受を終るべき考へなりと

●統監の馬關着

風波の爲め豫定の時日に到着する能はざりし伊藤統監一行は十二日午後四時無事下の關に到着したる由

●閔宮相渡日延期

閔宮内大臣は昨朝南大門發渡日の筈なりしが或る事情の爲め十五日に延期することゝなりたりと同時に渡日すべき女官の一行も是れと同時に出發すべしといふ

●岡次官の出發期

日本に出張すべき宮内部次官は往復約三十日の豫定にて本月十六日出發する筈なりと

●檢査局の擴張

各宮廳の會計檢査事務は頗る繁多を極め到底從來の檢査官のみにては充分なる檢査及處分をなす事困難なるを以て昨日の官報を以て會計檢査局檢査官の從來二人なりしを三人に增員し副檢査官三人を新置し主事十人なりしを二十人に增員の旨發布せり

●法令審査會の定會

内部法令審査委員會は從來隨時之れを開會したるが來週より毎週火曜日を以て例會と定なすことゝなれりと

●官費留學生補充

今回日本派遣の官費留學生欠員補充のため來る二十日二十一日の兩日學部に於て撰拔試驗を行ふ由なるが官立高等學校又は此と同等と認むべき學校の卒業證書を示し年齡十七歲以上二十五歲以下にして該試驗に應せんと欲する者は來る十六日迄に履歷書に學習せんとする學科志望書を添へ同部へ出願すべしとなり尤も其の出願者各自に就て受驗し得らるべきや否やを決定するは學部に於て願書審査の上定むる筈なりと

●東拓の登記變更

東洋拓殖會社は今般明治町三丁目に移轉したるを以て豫て登記濟なる南大門前事務所の變更登記を申請したりと

●蔚山の炭鑛發見

密陽在留の鈴木修氏は從來各方面に亘り熱心に利源調査に從事しつゝありしが今回蔚山方面にて良質の炭鑛を發見し炭量亦頗る豐富なるを以て既に其筋に出願中なりと從來南韓に於て炭鑛を發見したるもの尠からざりしも何れも品質粗惡にして採掘するに至らざりしが今回鈴木氏發見の炭鑛は海岸暗礁に露頭せしものにて目下ボーリングを施し採炭せんとて準備中なりと云ふ

●韓國道農會設立

確かなる說によれば農商工部は近く各觀察府所在地若しくは樞要の地に道農會を組織して中央農會支部たらしめ全韓内の農會を統一せむ目的にて同農會設立の上は水原模範場下賜金五百圓中より金百圓宛基本金として分配する筈なりといふ

●安東縣正金銀行

安東正金出張所にて過般開始せる兩小銀貨預入れは何分支那側にては利息の點につき預入れ少なしとの事にして又該銀行票の如きは同地には殆んど僅少なれとも約五百万位流通せり然して近來大豆粕の如き賣約等にて多少金融界に景氣を呈せりと云ふ

●釜山滊船の成績

釜山滊船は宗信丸の外必要に應じ他汽船の一時借入れをなして航海の增加を計りつゝあるが全航路中貨客多く目下有望なるは釜山迎日間、釜山三千浦間、木浦濟州島間にして每航海船客三百人内外貨物二千個内外の積荷あり春漁期節に入らば更に增加すべき見込にて釜山木浦間は沖廻りよりも地廻りの方成績良好なりといふ

●小學校の講話會

京城第二尋常高等小學校と尋常四學年以下は十二日尋常五學年以上は十三日各午前九時三十分より家庭講話會を開きたるが來會の父兄約四百人各學年共初めには兒童學齡若しくは實地就業をなし以て其參考に供し次には校長來會者を一室に集め學校の方針及教授訓育の現狀を述べ續きて講話會の必要を說けり而して更に各教室に於て保護者と擔當教員との懇談をなし且つ兒童の成績品を縱覽せしめ午後一時三十分閉會せり蓋し此の會合たるや教育上稗益なる所少からずとて該校教員一同は滿足し居りたる由

●京城民會の休會

京城居留民會は十二日開會せしが中學校設立に關する調査の爲め十五日迄休會する事となり十六日午後一時より開會する筈

●仁川經濟會開會

仁川有力者の發起に係る經濟會は其の後何等の活動をも見ざりしが十五日午後六時より仁川倶樂部に於て例會を開く事に決したり因に協議事項は未だ決定せざるも景氣挽回策に就き何等かの討議あるべしと云ふ

●實業同志會總會

仁川實業同志會總會は豫報の如く昨日午後一時より仁川民團役所樓上に於て開かれ決算報告役員改撰を行ひたる後會務發展に就き考究せられたるが詳細は次號に讓る

●警備豫算の調査

仁川民團の四十二年度豫算編成は略ぼ完結したるも唯だ警備に關する豫算即ち蒸滊喞筒に要する費用に就き尙研究せざるべからざるものあるを以て目下調査中なるが廿廿頃には全部完成する筈なりとの事なれば來る廿五六日頃第五民會を開き協議せらるべしと云ふ

●高禮式課長渡日

高禮式課長は十二日午前八時五十分南大門發渡日せり

●大邱の織物産額

大邱地方の重要物産中米穀に次ぐものは織物にして其一ヶ年の産額は紬、麻、木綿を通して七十萬圓以上之に次ぐものは莞莚なりと

●浦項魚市の設立

豫てより慶尙南道浦項に於て魚市場計畫ありしことは屢々耳にせる處なるが右は株式會社として創立すべく内議纏り資本金二萬五千圓三百株にて漁業者に半分の株を持たしめ殘部を魚問屋商人にて整理するに決し近く正規の出願手續を爲す由

●群山裁判所開廳

新設の群山區裁判所は過般來鮎川判事及時岐書記等着任して開廳準備中なりしが沃溝府廳の一部を廳舍に充て不完全ながら十日より開廳したりと

●第二艦隊の歸港

第二艦隊司令長官は吾妻を率ひて下關着後佐世保へ向け出港す

●申箕善氏の逝去

韓國元老なる大東學會長申箕善氏は豫て病氣の處一昨日死去す

●日本人倶樂部解散

日本人倶樂部の建物を京城ホテルに賣り渡し解散することゝなりしは世人の知る如くなるが今回いよいよ解散の運びに至りたる由なり

●秘書官と事務室

從來統監官邸の附屬なりし統監府秘書官事務室は十二日より統監府内に移轉せり

●關稅總長晩餐會

永濱關稅總長は本日午後六時より同官舍に於て龜山釜山、三増、馬山兩理事官の入京を機とし石塚長官、荒井、木内、俵の各次官を始め統監府一部の高等官を招待し園遊、將棋會の催を爲し終つて晩餐會を開かるゝ筈なり

●軍司令部の多忙

軍司令部にては目下動靜調査中なるが十三、四日より撤夜となし調査の進行を計り居れり

●憲兵將校の着任

十三日日本より着任し左の如く分隊附を命ぜらる

平壤分隊附　憲兵中尉　金田準助

大邱分隊附　同　木村機平

會寧分遣所附　憲兵少尉　加屋[illegible]

●憲兵將校の移動

十日附を以て天安分隊長憲兵少佐水間春明氏は平壤分隊長に平壤分隊長憲兵大尉神田長平氏は天安分隊長に交迭し大橋、鈴木、小師の大尉井原中尉は十五日京城出發赴任すべし

●三浦理事官東上

三浦理事官は昨夜南大門發夜行にて東上の途に就きたり

●庵原技師の歸朝

大日本水産大會に列席のため東上したる庵原農商工部技師は韓國漁業に關する講話を托せられたる由にて歸任期は豫定に後れ本月末頃になるべしと云ふ

●赤十字社彙報

○本社と伊國震災　日本赤十字社にては伊國の大震災に對し先般來内地の篤志者より救助義捐金を募集し數回送金したるが其金額は既に二十萬圓餘に達したる由次に我が皇后陛下には寒氣の砌に付き赤十字病院入院救助患者の狀況を思召され此程左の通り慈仁の恩賜ありたりと

一、双子縞　六十段

一、木綿裏地　六十段

一、金四十二圓　裁縫料

尙ほ昨年末赤十字社韓國委員部管轄内の赤十字社員別及國別を記すれば左の如し

國別	名譽社員	有功章者	特別社員	正社員	贊助社員	小計
日本	一	一六	九三	八〇四	九	九二三
韓人	五	二	四八	[illegible]	〇	[illegible]
其他外國人				九五	〇	九五
總計	六	[illegible]	一四一	[illegible]	[illegible]	[illegible]

●本日の集會

●長谷川町西本願寺　同本願寺にては本日午後七時より巖開教師の說教あり

●日本基督教會　同教會にては本日午前九時より日曜學校十時より石原牧師の『良心の聲』午后七時半より同教師の『天來の慰安』と題する說教あり

●京城基督教會　旭町の同教會にては本日午前九時半より日曜學校同十時半より同教會附屬青年會の發會式を兼ね左の講演あり

一、呼べる聲石　米澤牧師

一、青年の使命　同牧師

公人私人

▲西島師團長　昨日午前九時出發北韓視察の途に上る

▲安島政位（關東憲兵隊長）　昨日午前九時出發歸任の途に就く

▲吉野勝（統監府囑）　民團事務用向の爲め十一日東上せり

▲藥師川憲兵少佐（京城分隊長）　約十一日の豫定を以て仁川より海州に上陸し黃海道を視察すべく昨日出發せり

●近事片々

▲東拓　總裁は例の草鞋主義を勵行して何れに行くも徒歩なりと希くは飽迄勵行せよ

▲抱車　を持つ閔副總裁之には閉口せりと左もあるべし虛榮を好む韓人に項門の一針

▲由來　京城は韓人も日本人も虛榮に過ぐ殊に役人連は殊更に此弊害多し矯正せよや

▲此際　に於て宇佐川總裁鋭意此風を勵行せば殖民地の風氣を矯正するに効あらん乎

▲併し　兎角物は華美に流れ易し[illegible]るの傾に軟化することなくんば[illegible]

▲東拓　丈けはせめてもに京城の安逸淫蕩の風に襲はれざる今に於て覺悟する所あれ

▲初め　に於ては之を勵行する四邊の境遇は自然侵蝕し來り軟化の勢ひ激し注意肝要

▲蟻穴　の目より見れば斯る事は些々たることとは蟻の穴の狹き[illegible]も決して然らず

▲事物　は小なる所に於て能く缺所を示すもの小事に忠なるは大事に忠なる所以に候

▲近者　ヨボ役人部囑して曰く伊藤は日韓官吏の俸給を同額にする意ありと喜び居る

▲豈夫　同一にも爲さゞるべきも今日の如きは非也給料高く拂て無能者を卻く可き也

▲役に　も立たざるもの澤山置くより手腕あるものを少く採用するの方針を可となす

▲其そ　方針とすれば現時各部に於ける官吏の數は大に減せざるべし早く斷行せよや

▲殊に　ヨボ役員には役に立たざるもの多きやに見受く情實上止むを得ざるが爲にや

▲兎角　東洋には情實の爲に多くの吏員を置く弊多し之れ役所に於て事務澁滯の所以

▲近來　韓國學校の教員連に政治論を唱へるもの多しと聞く大に戒飭するの必要あり

▲管に　自己が政治論をなすのみならば可なるも之を兒童の柔き頭を吹込むは大害也

▲慨慨　淋漓口角泡を飛ばして排日問題を說くに至りては尙更に警戒するの要ある也

▲監督　廳は教師の撰擇に充分の注意を拂はざる可らず然らざれば不測の弊害あらん

▲政友　會は政府の要望を峻拒して阿里山其他の問題を否決せんとの勢ひを示せりと

▲之が　事實ならば近來大出來なれども斯く押問答する中に何時しか黨議は[illegible]

▲嘗し　も今の態度を變せず政府の要望を悉く峻拒すれば政友會は頗る面白くなる

●外國貿易旬報

……中貴賓五名は本朝農商務省商品陳列所を參觀し我が技術の進步に驚嘆し滿足の意を表せり（十三日發）

本年貿易額の港別左の如し

港別　本旬分　前年同期

港別　本旬分　輸出額　輸入額　計

鎮南浦　京城　群山　四三、二五〇　一三、五七三　二六、五二〇　一〇一、〇八五　五六、八六〇　二六、五二〇　一〇一、〇八五

新義州　計　一〇、九三　二三九、三三六　七、七七九　五六七、一五〇　一八、六四一　八〇三、四八六

輸出重要品表

大豆及小豆　鮮魚乾魚及鹽魚　人參　三三、八六三　二〇、四〇三　六　一〇〇、五〇三　七、六二一

……仁川俱樂部に仁川有力者數十名を招き新任披露をなす筈なりと

七代目 芳村伊三郎（十）

▲藝術修業の困難

▲新富座の新築　假小屋の芝居は翌年の春興行に吹矢と云ふ所作を出して一先づ打揚げ、間も無く現新富座の新築が落成して三月の彌生狂言に華々しく開業式を擧行した、總來の脇狂言や序開杯は之を期として**廢止**となつた其れが爲め見習連の勉強が出來なくなつて僅かに**藝術練磨上**に**一大打撃**を蒙つたと云つても宜い、此時から初めの時間は大抵朝八時位ひで役の中に初めると云ふ樣な事もなくなつた、開業式としての狂言は讓不動記、元祿花見踊、新石橋で元祿踊りには名題役者の總出で歌は彼れが父即ち六代目伊三郎が唄ひ新石橋は杵屋正次郎の作歌で松島正五郎が唄つた又此芝居で**初て瓦斯**を**使用**し、從來**木綿**の引幕なりしを**甲斐絹**に改め紫地に金砂の丸に片羽根を塗り左右に松竹梅を繪きたる美事なるもので、如斯萬事が整頓して來たことゝて大變な人氣で大入を占めた頃は僅か明治十一年であつた

▲**大薩摩の初彈**　翌十二年の春芝居は一番目赤松滿祐、二番目繪風鈴で兩方共書卸であつた、此外に勸進帳も出して一方の立三味線が正次郎で脇が六之助（桂次郎）一方が六三郎で脇が六四郎で、勸進帳の役割は矢張り團十郎の辨慶に左團次の富樫、半四郎の義經であつた、此幕に加賀騷動を出して笠摩川の處で本に殘つた**大薩摩**が初めて出來た其迄は大薩摩と云ふても大抵間に合せに作つたのだが此笠摩川のは今に**本に殘**つて居る、歌は父伊三郎と正五郎が一日替りに唄ひ、三味線は正次郎と六三郎が一日替りなりしが二十日間程を經て六四郎と六之助が**一日替**りにやらして貰ふ事となり六之助は父伊三郎の時に彈いたが是れが舞臺で大薩摩を彈ひた初めてだから其嬉しさは例へ樣がなかつたとさ

▲**未熟を嘆ず**　此時分から六之助は常に團十郎の所作を彈き、六四郎は菊五郎の時に彈き外の者のは一切彈かないと云ふ隨分戯査な者であつたが、已れと一所に進んで來た六四郎は腕がメキ〳〵進んで常に六之助を**凌駕**し明治十四年六四郎は既に立三味線となり、六之助も立三味線の格になつたがドウも奧儀を極むる事が出來ず役は常に六四郎に彈かれたされば彼れは自巳の未熟を嘆じて快々として樂ます、父伊三郎からも又其**不甲斐**なさを責められるものから、愈々慨歎して師匠正次郎の技術一切を盤へ込まんと如何程苦辛しても最早頭が髮手古と奉つて居るゆへ更に判からぬ此時彼れが二十七歳の時であつた、

●薄情男の標本（上）

▲妊娠の妻を離別し▼
▲淫賣婦を後釜とす▼
▲是が堂々たる役人▼

盃洗の水を涙とする魔窟の賣春婦が可愛くて血の涙を絞る良妻の面憎しとは是れ蕩兒の慣ひとて敢て珍らしき話にも非らねど去りとて聞いて聞き捨てならぬ不義理不人情の放蕩兒が尚は得々然として毫も反省の情なしと云へば正しく三千棒を見舞ひ申すべしさて茲に書き出す一條は當地大和町二丁目某舍官に住居して日々毎日統監府の制服制帽に帶劍と云ふ至極意氣な扮裝にて日々役所勤めをなさる畑中繁助とか云ふ**判任殿**の身の上にこそ事は稍々舊聞に屬すれども此畑中と云ふが兼て當地某所に就任の際獨身者の渡韓况して蕩兒の除長たる事とて兒を思ふ親心から**兩親**が之れぞと**定**めて娶合した妻のれ何と共に手を取り足を連ねて渡韓しけるが初めの程は夫婦の交情も至つて睦まじく元より識懇とて一度も立たせし事なく隨て朋輩連や同僚にも畑中の夫婦はと近羨やまるゝ程にて妻のれ何は何時しか**姙娠**の身とさへなるに至れるぞ目出度かりける次第なるに世の例にも好事魔多しとかにて夫の繁助は何時の頃よりか地金を現はして當地彌生町は一丁目其頃開業中なりし**末廣樓**とか云ふ竹にも堂さる柳の宿に身を潜むるれ化けの豊子とか云ふ**酌婦**に現を拔かし家を外になる大惚けの果ては天大切に涙で諫むる妻のれ何の何等罪なき况して妊娠中なるをも顧みず無慘にも**放出**して其後釜に件の豊子をば引入れたるが適に憐れにも追ひ出されたる妻のれ何は知らぬ旅路の韓國で而も女の身の何處に便るべき的もなく殊に妊娠の身なれば今更に我身の不幸夫の薄情を歎き涙の袖に乾く暇さへなきにぞ此有樣に附近の者も同情を寄せ切めては分娩の日迄もと種々繁助に懇願すれど豊子に迷つた繁助なか〳〵以て聞き入れねば今は詮なしと遂に近所の人々等相談つて大和町は同官舍の附近韓人家屋の溫突一間を借り與へて稀々慰むれば何も爰に初めて氣を取り直し自分が身二つにさへなれば夫もまさか鬼にも蛇にもあらざれば必ず小兒の愛に引かされて速の夢も薄らぎ同時に自分に對する愛情も再び復せばやと夫れのみ頼みに今日よ明日よと分娩の日を待ち居たるぞ憐れなり（ぞく〳〵）

●委託物消費者の自首

愛媛縣平民當時大邱西門内田邊天光堂方印刻職關家雅篤（三十）は雇主天光堂より印刻の注文取りの爲め本月七日見本として水牛象牙及水晶等の印材七十餘個を携帶出發し金泉、永同、太田等の地方を經て京城に來りたるも一人の依頼者もなかりしにぞ此儘歸るも面目なしと思ひ煩ひつゝありし矢先き花柳病に罹りたるより藥代は措き宿泊料にも困却せしより遂ひに委託せられし印材悉皆を各所の印刻師に賣り拂ひたる上其料に充てたるが良心の呵責に堪ねかね一昨十二日南部警察署へ自首し出でたりと云ふ

緊急廣告

本社員と詐稱し山本警部義捐金募集を申出候者有之哉の風聞有之候得共本社にては社員を特派して募集に從事せしめ候事實無之候に付爲念廣告候也

二月十三日

京城新報社

●賣掛金拐帶者就縛

仁川ホームリンガ商會の店員長崎生れの田中貞一（二十九）は一月廿六日掛金四百餘圓を拐帶し敷島深川樓日の出を二百圓にて身受し手に手を執りて隨德寺をきめ込みたるが去る八日臺灣臺北に潛伏し居るを同地警察署に發見せられ逮捕せられたりと

●酌婦の罰金

仁川猪島廓内壽亭酌婦山本つるは一月十三日大阪西區南堀三番町材木商中川よしと僞名して酌婦の鑑札を受けたる事發覺し警察令處罰に依り一圓の罰金を仰せ付けられたり

●自殺酌婦の取押

仁川花町二丁目飲食店菊の家こと伊藤忠二郎方酌婦原田かめと云ふは當時流行の前借踏み倒しをやらんものと一昨日正午頃無斷にて家出したるより忠三郎は大事の玉を逃しては大變と青くなり覗面仁川停車場より汽車で逃げんと鑑定を付け仁川驛に馳せ付けたる所果してれかめが汽車に乘らんとする所なりしを引捕へ直に派出所に屆け出たり

●公判だより

法務院に於ける來る十五日の開廷事件左の如し

▲民事部（午前十時より）
一上訴人本間忠三郎被上訴人瀧野喜一間貸金請求事件
一上訴人奥田貞次郎被上訴人吉買藤吉間約束手形金請求事件

△刑事部（午前十時より）
一柳村基治詐欺取財及土居聰一橫領事件

●德島縣人會

旭町一丁目松崎銀平、福島小三郎龍山櫻町古市喜太郎永樂町二丁目堺和吉旭町一丁目森山嘉平の諸氏發起となり來二十日午後二時より壽町井門樓に於て德島縣人會を開催する由詳細は別項廣告に見らるべし

●正則英語學院の開設

今回龍山榮町に開設せられたる同院にては實用會話及び英作文に重きを置き別科として國語漢文數學を教授する由にて教師は多年教育に從事して教授上の經驗を有すと教授時間は日曜大祭祝日を除く毎午前九時より午後九時迄にして教科書の如きは各自隨意に撰び教授の際めに應ずと云へば晝間業務を有する者にとりて極めて便益なるべく初學者の爲めには特殊の教授法に依りて授業す因みに入學者の學力程度は高等小學校二學年以上のものに限ると云ふ

（演）……（藝）……（だ）……（よ）……（り）

▲慈善演藝會　京城日報社工場員娛樂會にては今十四日午後五時より本町七丁目京城座に於て故山本巡査義捐演劇會を催す筈

▲五雲會能會　來る二十一日（第三日曜）午後一時より本町六丁目有明樓に於て同會第廿六回能會を擧行する筈なるが種目は海人、七騎落、求塚、百萬、烏帽子折等なりと

▲仁川歌舞伎座　に乘り込みたる今紫一行は非常なる好人氣にて連日大入を占居りと

▲酒井等の消息　群山に乘込みたる酒井政俊一行の田宮、松村兩優の通信に依れば同地にては未曾有の大一座の事とて人氣湧くが如く初日に『伊達女』を出して大喝采を博したりと

▲當地歌舞伎座　興劇合同團の今日の替りは大每懸賞小說として有名なる『將棊島』全十幕にして重なる役割は
大脇貴直（三輪）坂本茂雄（西）松岡垣雄（池田）田島妾れきぬ（上田）成瀨の母たせい（稻葉）田島治（日東）成瀨源吉（沖野）尙ほ明日は菊地幽芳氏の（己が罪）全十三幕にて役割は
櫻戶隆弘（三輪）塚口虔三（西）れ作（池田）櫻戶夫人環（上田）箕輪傳三、れ作亭主岩三（稻葉）モリソン、村長船村（日東）しま子（平野）

▲永樂亭　今晩の語りものは左の如し
寶の入船（梅花）義士讀切傳（赤團）新內釜ケ淵二ツ巴（若吉妻吉）滑稽落語（百朝）朝顏日記宿屋（梅笑）永樂德太郎傳（吾樓）音曲曲藝（遊七）先代萩（大の助）落語滑稽演說（遊七）



平民文庫

▲往來に水を撒くことは强ち惡いとは申しませんが今日此頃の樣に寒いときは少し控へ目に願ひたい撒かれた水が直ちに氷つて往來は鏡の樣になる夫れが爲め近づて轉倒人も少くない（老人）▲木尾附郎樣には御忠意ありがたく存じ申候併し折角の御忠意なかは彼の人のことばかりは思ひ出れば不申たどはそのため病氣と相成り候どもつゆいさゝか怨みとは存じ不申却つて本望に御座候以來は決して此の事に關し御口入れ下さるまじく失禮なから御斷り申上候（京城樓高子）▲本町三丁目の井口藥房の娘さんの御聲さんは極まつて居りますか（候補者）▲歌舞伎座は出し物もよし役者も腕揃ひであるから面白いこと此の上なし（劇狂生）▲過日の仁川民會は近來になき活氣を呈した此れが裡面には大秘密が伏在して居る相だが記者先生は御存じないのですか（精通士）▲朝鮮新聞社の主催にかゝる仁川かるた會は本日午前九時より一山樓にて開催せらる本競技は午後　時より會費は五十錢にして晝飯の用意もありと云へは同好者は奮つて參會せらるべしと賴まれもせぬことを賴まれた樣にかくの如し（係り）▲芳村伊三郎の一代記は休まず出して下さい（花類生）▲歌舞伎座の女優平野照子丈は西万兵衛君の戀女房だと云ふ人がありますが眞實ですか（もちづき）▲先日新町に白赤黑の三化物が徘徊して居つたが何時の間にか何樓へ登つた一体あれは何者だらうアハゝゝ（知居僧）▲文庫記者さんは二面子を不粹だと仰言つたが中々不粹所おやありませんよ妾はようく知つてますよ（うめ女）▲ヤ彼奴が彼奴が内々そうと知らして下さい白状つくれの面の皮を剝いてやりますから（係り）▲廓雀子の新町だよりは實に穿つたものだ（誰歟郞）▲魚遊痴史さん益々其詩襲を傾倒して下さい（すみれ）

小使入用

志望の方は本社營業部へ御來談あれ

●義捐金募集

今回警視廳巡査山本雅夫氏が兇賊の爲め非業の死を遂げられたるは職務の爲めとは言ひながら誠に同情に堪へざるものあれば吾々同業者は茲に義捐金を募集し氏の遺族に送ることゝしたれば同情の諸君は左記何れの社にても差支なきを以て續々申込みありたし

一義捐金申込は一口十錢以上とす
一締切は本月十五日限り
一領收證の替りに新聞に掲載す
一義捐金は警視廳の手を經て遺族に贈與す

二月二日

京城日報社
大韓日報社
朝鮮日々新聞社
京城新報社

廣告

故山本警部吊慰金義捐者

金壹圓　旭町三丁目　開進亭一同

通計三十九圓二十錢也

▲無料紹介欄▼

人事部

求事業家 確實なる事業にて年十百圓以上出資し得る人を求む 金五旭町十の六十 京仁商會（一六三）

求妻 知人年三十五歳品行方正身体健全月收百圓餘三十前後にして普通教育ある婦人を望む 旭町一の六十 川村（一六四）

韓語速成教授 本町六丁目六五韓語速成講習所（一六五）

十九高等小學校及補習夜學卒業如何なる仕事にても不苦成るべく給料の多きを望む 姓名在社（一六七）

簿記に心得あり會社官廳を望む年齡二十三歳 在社（一七〇）

度量衡…事務に心得あり年齡二十六歳 在社（一七一）

物理學校及中學校卒業の者…毎日數時間…地方行にても宜敷俸給不論 姓名在社（一七三）

物件部

貸家 龍山停車場前十五間道路新築表口二階…家屋建具一切付用水の便あり 龍山停車場前 電話…島田（一四五）

貸家 龍山漢江通り三丁目十五間道路一等場所にて間口三間總二階 京城明治町一丁目 ゑり龜（一五〇）

商店 向貸家但本家造作付間口三間店土間五坪六疊一室裏空地十五坪家賃二十三圓 永樂町二赤門前 岡（一五六）

土地 南山町二丁目南山麓眺望絕佳約三百坪貸又は賣却何れ共御相談に應す 永樂町二丁目 岡内（一五七）

御入用の方は下名へ 南山町一澤田館 小谷（一五八）

…十二號… 四十七チャイン右賣却…

貸家 新築家屋上六疊二疊下三疊六疊…外押入れ…建具一切… 南山町一丁目清島 電話八三五（一五九）

貸間 二階六疊二間床間押入付 至急貸したし 旭町一の六十 京仁商會（一六一）

電話至急買受けたし 本町五 月の家（一六〇）

雜貨 見切品見世仕雜品及諸道具其他不用品何でも買入ます 旭町一丁目・旭町競賣所（一六二）

賣家 大和町三丁目遊廓裏道川端地坪約五十坪瓦葺平家造作付四軒建長家 井戸付屋敷賣却致度 赤門 岡（一六八）

貸間 旭町便利の場所に賄付上等貸間あり高等官亦會社員向御希望の方は若六五九番に御紹介被下度候（一六九）

貸家 若草町一、温突一間疊敷二間日本流押入二個付外に炊事場玄關付家賃二十三圓 若草町一ノ一二九矢島（一七二）

貸家 若草町一ノ温突二間疊數二間日本流押入付外に炊事場玄關家賃十三圓 若草町一ノ一二九矢島（一七三）

旭町一丁目山の手にて風景絕佳の土地建物付にて讓り渡し 姓名在社（一七五）

家庭用ミシン裁縫出張親しく教授致度候習希望の御方は御一報被下度候 南山町一丁目澤田館内 山本（一七六）

島致院近傍にて田畑二十余町歩納家二棟農具各種小作人又は讓渡しの相談に應す 姓名在社（一七七）

貸家 京城明治町二丁目所在二階建五間家賃廿二圓・廿三圓・廿五圓 疊建具完備厠勝手元用水便利也 明治町角藤田合名社貸家係（電話二二〇番）（一七八）

廣告

究物賣買周旋業